

平成29年度横浜市社会福祉審議会会議録	
日 時	平成30年 3月27日 (火) 10時～11時30分
開催場所	関内新井ビル11階 関内新井ホール
出席者	大場茂美委員長、山下正人委員、竹野内猛委員、小倉徹委員、小川淳委員、坂田信子委員、鈴木啓正委員、高山健委員、中野しずよ委員、野川利枝委員、宮田光明委員、早坂由美子委員、川島通世委員、新保美香委員、早川陽子委員、平井晃委員
欠席者	今野典人委員、岸恵美子委員、水野恭一委員、畠山卓也委員、横井正巳委員、渡部匡隆委員
開催形態	公開 (傍聴者0人)
議 題	<p>1 報告</p> <p>(1) 「第7期 横浜市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画」策定について</p> <p>(2) 「第3期 横浜市障害者プラン改訂版」(原案)について</p> <p>(3) 「第4期 横浜市地域福祉保健計画」について</p> <p>(4) いわゆる「ごみ屋敷」対策について</p> <p>2 その他</p> <p>(1) 平成30年度健康福祉局予算について</p> <p>(2) 新たな中期計画の基本的方向について</p>
議事	<p>1 報告</p> <p>(1) 「第7期 横浜市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画」策定について</p>
高齢健康福祉課長	よこはま地域包括ケア計画(第7期 横浜市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画)について説明
障害企画課長	(2) 「第3期 横浜市障害者プラン改訂版」(原案)について 「第3期 横浜市障害者プラン改訂版」(原案)について説明
川島委員	よこはま地域包括ケア計画及び障害者プランについてまとめて意見を述べたい。両計画への意見の結論として、現場の支援を市としても強力に進めてほしい。計画の策定については、両計画共に職員の努力で素晴らしいものが出来上がったと感じている。問題は市民、高齢者、障害者にどのように届けていくかということ。包括支援センターや基幹相談支援センターなどで支援を行っているが、人が足りないという状況があり、支援をお願いすると会議が開かれるが、それに時間がかかり、支援に割ける時間が減っていると現場から聞いている。一人ひとりにお届けする現場のインターフェイスに力を注いでほしい。
高齢健康福祉部長	計画策定に当たっては現場からの意見を取り入れるために多くの時間を割いた。18区役所での説明・意見交換、20以上の団体との意見交換、団体以外の方とも意見交換をしている。実効性のある計画として策定したので、計画が浸透するよう幅広く関係団体や市民の方に説明する機会を設けていきたい。

障害福祉部長	<p>障害者プラン改訂版について、委員のご指摘通りのところもあるが、計画策定にあたり、1年間かけて当事者、家族、事業者と話し合いを重ねてきた。障害福祉分野の大きな課題の一つに人材の確保がある。人材がいなければ十分な支援はできない。人材確保に特効薬はないが、関係機関で知恵を出し合い、人材確保の努力をしたい。計画の実効性をより高めていきたい。</p>
高山委員	<p>松風学園の再整備検討について、利用者の居住環境改善はとても大切なことであり特に個室化はぜひ進めてほしい。また、松風学園には公立の施設として、市のセンター的役割を担ってほしい。高齢重度化した障害者、強度行動障害のある障害者の方など居住生活が難しい方がいる。松風学園には、利用者はもちろん横浜市の障害者を支える機能をもってもらいたい。</p>
障害福祉部長	<p>松風学園の整備から35年が経過し、建物が老朽化している。当時は一般的だった4人部屋だが、現在は個室が必要な方が基本である。市内の障害者入所施設として唯一の市立施設でもあり、委員の意見を参考に、現在も取り組んでいる入所者の地域移行、加齢児の受け入れ等公立施設としての役割を意識しながら責任を果たしていきたいと考えている。</p>
山下委員	<p>医療的ケア児支援の一番大きな課題は教育行政と考える。特別支援学校にデイサービスが併設される方向性となり、局間の壁が破れてきたとは思われるが、政策の中で健康福祉局、教育委員会、こども青少年局とそれぞれの局の縦割りの部分がかかなりあった。ずいぶん前進したとは思いますが、特別支援学校の重度障害のある子は、医療的ケアがないと学校にいられないこともあり大きな課題である。教育委員会の協力は非常に重要であり、教育委員会の積極的な関わりを期待しているが、局長の考えを聞きたい。</p>
健康福祉局長	<p>現場の教員が課題を抱え込みすぎているのではないかと考えている。福祉では医学の知識を活用していることが多く、医療関係者の力をいただいている。教育分野でもそうしたことはある程度行っていると思うが、重度障害の児童についてもっと対応が必要と考えており、今後、医療関係者の力も借り、福祉と教育の連携に努めていきたい。</p>
小川委員	<p>松風学園の再整備について、青年期以降の知的障害、発達障害に対応する医療が課題である。リハビリテーションセンターとして医療の対応をしているが、量的に十分ではない。更に入院のような集中治療が必要な方が一定数いる中で、横浜市民でも一定程度、旧梅ヶ丘病院や高崎の施設で治療を受けている方がいると聞いている。市内での地域生活を支えるための入院、施設生活の継続が困難になった方への入院による集中的な薬物療法など入院体制が下支えとして必要ではないか。松風学園の再整備に際し、医療、特に入院への考えを盛り込んでほしい。</p> <p>また、医療的ケア児というと重症心身障害児をイメージするが、元気に動けるが気</p>

	<p>管切開しているという子もいる。そうした子への視点が見過ごされがちなので十分に配慮してほしい。</p>
障害福祉部長	<p>松風学園に医療的ケアの体制を整えるべきという意見について、今後も入所者の高齢化、重度化が進む中で濃厚な医療的ケアが必要と考えている。平成30年度に新施設基本構想を進める中で医療的機能を検討する。</p> <p>医療的ケア児については委員の意見を踏まえ、見落とすことがないようにしていきたい。平成30年度から養成するコーディネーターには看護師を充てることを考えており、医師会からも協力をいただけるのではないかと思う。重症心身障害児以外の医療的ケア児への対応を支援できるよう研修などにも取り組んでいきたい。</p>
障害支援課長	<p>松風学園の再整備にあたり、病院機能をつけるということにはならないが、服薬調整等の医療的対応をできるようにすべきと考えている。入院については障害者対応が可能な病院と協力していきたい。</p>
福祉保健課長	<p>(3) 「第4期 横浜市地域福祉保健計画」について 「第4期 横浜市地域福祉保健計画」について説明。</p>
福祉保健課 人材育成担当課長	<p>(4) いわゆる「ごみ屋敷」対策について いわゆる「ごみ屋敷」対策について説明。</p>
野川委員	<p>良い経過を経たケースの報告を聞くことができ、ありがたいと感じた。臨床心理士の協力を得ていく話があったが、今後、関係機関との協力はどのように重点化していくのか。</p>
地域福祉保健 部長	<p>条例施行から1年程経過し、対応が進んでいる一方件数は増加している。従来からあった「ごみ屋敷」の認知が進んだものであると思う。それぞれのケースで状況は様々で、定まった傾向はないと認識している。長期に「ごみ屋敷」状態になっているケースについて、区を中心に対応している中で、背景に精神疾患や発達障害があると思われる方もいる。このため一部のケースについては、臨床心理士や学識経験者の知見を得て対応を図っている。専門家のご支援・ご協力を頂くとともに、地域ケアプラザやその他の関係の機関と連携を密にして事案に対応していきたい。</p>
大場委員長	<p>合計件数ののべの意味は何か。解消後、状態が戻った事例もあるとの理解でよいのか。</p>
地域福祉保健 部長	<p>再発を含めてのべ件数となっている。</p>

山下委員	<p>いわゆる「ごみ屋敷」の条例を制定し、資源循環局・健康福祉局と協力して解消に努めていることは分かるが、件数は増えている。近隣の住人からみれば大変深刻な問題であり、健康で快適な生活を営む権利の侵害と言えなくもない。大変な苦勞をしているという声が議会にも届いている。「ごみ屋敷」がなかなか解消されないことには、福祉的な背景があることは承知しているが、文書指導の実施が1件のみであるならば、代執行の実施は現実的な話ではないのではないか。先ほど問題の背景に障害などがあるという話もあったが、まずは役所から文書指導を行い、近隣の方が迷惑を被っているということを積極的に伝えないと本人が認識していかないのではないか。</p> <p>文書指導が1件ということをどう感じているか。77件の解消への意気込みを聞きたい。</p>
地域福祉保健部長	<p>文書指導及びそれ以降の勧告等は、状況によって実施することはやぶさかではないと考えている。区局で十分な情報交換と連携を図りながら、適切な時期に適切な措置を行えるように対応していきたい。「ごみ屋敷」に住む人の置かれた状況を十分に把握し、その方との関係を構築し、適切な時期に文書指導等を行っていきたい。</p> <p>77件の解消について、区役所は頻回に訪問・対話したり、時には注意したりしている。できるだけ早い時期に解決できるよう区局で全力をあげて取り組んでいく。</p>
議事 企画課長 企画課長	<p>2 その他</p> <p>(1) 平成30年度健康福祉局予算について 「平成30年度健康福祉局予算」について説明</p> <p>(2) 新たな中期計画の基本的方向について 「新たな中期計画の基本的方向」について説明</p>
	<p>1 資料</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料1：横浜市社会福祉審議会について及び根拠法令等抜粋 ・資料2：横浜市社会福祉審議会委員名簿・事務局名簿 ・資料3：よこはま地域包括ケア計画（第7期 横浜市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画）概要 ・資料4：「第3期横浜市障害者プラン改訂版」原案について ・資料5：第4期横浜市地域福祉保健計画（平成31年度～35年度）素案の概要について ・資料6：いわゆる「ごみ屋敷」対策について ・資料7：平成30年度健康福祉局予算について ・資料8：新たな中期計画の基本的方向 <p>2 特記事項 なし</p>